

製品名: ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04633**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	44+42kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK1/MAPK3
別名	MAPK3; ERK1; PRKM3; Mitogen-activated protein kinase 3; MAP kinase 3; MAPK 3; ERT2; Extracellular signal-regulated kinase 1; ERK-1; Insulin-stimulated MAP2 kinase; MAP kinase isoform p44; p44-MAPK; Microtubule-associated protein 2 kinase; p
遺伝子 ID	5595/5594
SwissProt ID	P27361/P28482
免疫原	抗血清は、ヒト p44/42 MAP キナーゼ由来の合成ペプチドの Tyr204 のリン酸化部位周辺に対して作製された。アミノ酸範囲: 170-219

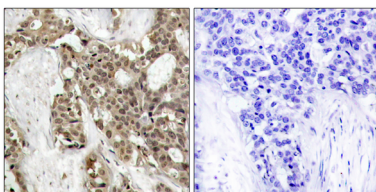
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーのメンバーです。MAPキナーゼは細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) としても知られ、様々な細胞外シグナルにตอบสนองして、増殖、分化、細胞周期の進行といった様々な細胞プロセスを制御するシグナル伝達カスケードにおいて機能します。このキナーゼは上流のキナーゼによって活性化され、核に移行して核内の標的タンパク質をリン酸化します。異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子: マグネシウム。、ドメイン: TXYモチーフには、リン酸化によってMAPキナーゼが活性化されるスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。、酵素調節: インスリンおよびNGFに反応してチロシンリン酸化によって活性化されます。、機能: ELK-1などの多数の転写因子をリン酸化することにより、分化細胞における減数分裂、有糸分裂、および有糸分裂後機能の開始と調節に関与します。EIF4EBP1をリン酸化します。翻訳の開始に必要です。微小管関連タンパク質2 (MAP2) をリン酸化します。SPZ1をリン酸化します (類似性による)。熱ショック因子タンパク質4 (HSF4) をリン酸化します。、PTM: Thr-202とTyr-204が二重にリン酸化され、酵素を活性化します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。MAPキナーゼサブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、サブユニット: MORG1と相互作用します (類似性による)。HIV-1 Nefに結合します。この相互作用により、そのキナーゼ活性が阻害されます。HSF4およびNISCHと相互作用します。、

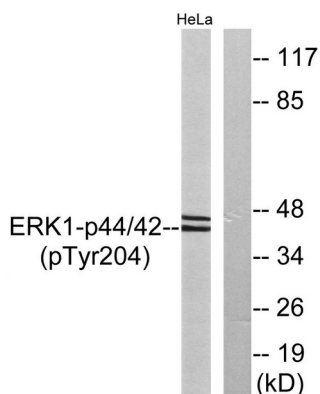
研究分野

血管新生の制御、微小管の制御、アクチンダイナミクスの制御、幹細胞経路、T細胞受容体、インスリン受容体、細胞増殖、Toll様タンパク質、MAPK、ERK増殖、MAPK、Gタンパク質、B細胞抗原、PI3K/Akt、mTOR

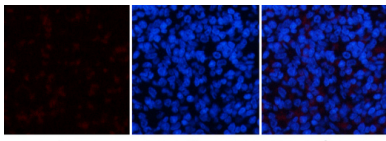
画像データ



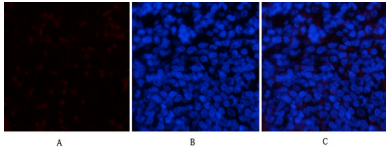
p44/42 MAPキナーゼ (リン酸化 Tyr204) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



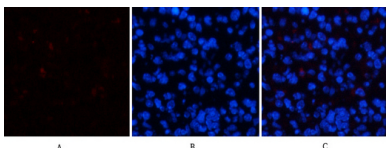
EGF 200 ng/ml 30分処理した HeLa 細胞ライセートの p44/42 MAPキナーゼ (リン酸化 Tyr204) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



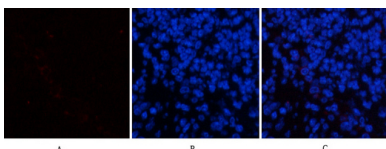
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



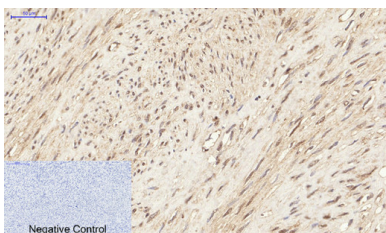
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



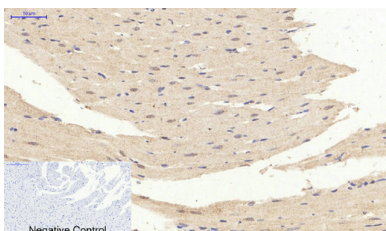
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



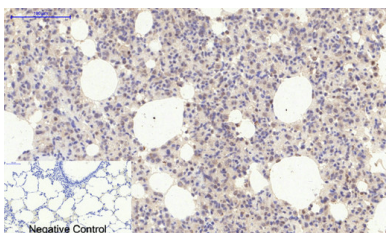
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. ERK 1/2 (リン酸化 Tyr204) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。